

JAC岩手支部通信 第52号

(公社)日本山岳会岩手支部

発 行 2020 年 9 月 30 日 発行者 阿部陽子 事務局 高橋勇一



令和2年度 あいさつ 岩手支部長 阿部陽子

支部長をおおせつかって5年目になりました。皆さんの会員勧誘が効を奏し、令和元年においても10名(準会員・会員移行を含む)が新たに入会するなど、支部の活性化が大きく進みました。今後2年間の指針を簡単に列挙します。

①執行部役員の交代:高橋慎一さんから高橋 勇一さんに事務局長がバトンタッチ。51号ま で菅原敏夫さんが担った支部通信の編集は、 中屋・勇一・熊谷(加)・川村・阿部のスタッ フ形式となり、無理のないところから始める 試行錯誤の通信52号です。A4サイズの数ペ ージ程度を年2回発行したいと思いますので、 原稿の執筆など、会員各位のご協力お願い致 します。

これまで縁の下の力持ちとして、きめ細な 仕事をこなした事務局長の高橋慎一さん、発 行の度にセンス良くレイアウトを進化させた 菅原敏夫さん、滝浦弘美さんと交代した監事 の高木恵美子さん、長い間たいへんありがと うございました。

②県山協の関連事項:岩手山八合目避難小屋への管理協力・各種講習会は、澤口誠さんが担当します。県山協の事業に係わりながら皆で勉強しましょう。

③例会山行:これまで同様月1回実施。幹事は会員の交代制で行い、計画から呼びかけ・必要に応じた準備・登山届から山行記録まで、一連の流れを幹事が取り仕切ります。

令和2年度は新型コロナウィルス禍ですが、 一人ひとりが適切な対策をとり、「良き仲間」 と「よき登山」を得られるよう「安全な山ラ イフ」を総力で運営していきましょう。 公益社団法人日本山岳会岩手支部 令和2年(2020年)度総会報告

高橋慎一

令和2年度総会は4月5日(日)13時30分より、盛岡駅西口「濱野井マリオス店」にて会員67名中、出席者23名、委任状提出者34名、計57名(85.1%)をもって成立、会場では新型コロナウィルス感染防止対策をとって開催された。

はじめに支部長から9名の新会員の紹介があり、また昨年の支部公開講座(読図ナビゲーション)の開催や県山協各種研修会への積極的な参加など、会員の協力と努力に感謝しますと述べられた。さらに岩手支部は会員増加の状況にある、一人一人が技術を身に付け高めて欲しいと挨拶があった。

続いて議事に入り、高橋 耕氏を議長に選出 して審議が行われた。第1号議案「事業活動 報告 | 及び第2号議案「会計決算報告並びに 監査報告」については、いずれも議案書通り 承認された。会員からの寄付金の活用につい て、研修会参加補助などに還元していると説 明があった。第3号議案「事業活動計画案」 は、全国支部懇(宮崎)が延期、東北・北海道 地区懇(青森)は検討中など影響が予想される が、臨機に対応することで概ね原案どおり承 認。第4号議案「会計予算案」についても原 案通り承認された。また、8/10~11 に開催し た「山の日」記念公開講座並びに「特別事業 補助金」会計収支について中屋副支部長から 詳しい説明があり、会員獲得に繋がったとの 報告があった。

役員改選については、阿部陽子支部長の再 任が満場一致で承認された。

役員では高橋慎一事務局長(在任4年)が退任して高橋勇一氏(盛岡市)が新たに選任され、監事では高木恵美子委員(在任6年)が退任して滝浦弘美委員(盛岡市)が選任(兼任)さ

れ新しい顔ぶれになった。また支部通信編集 担当の菅原敏夫委員から辞任の意向が伝えられ、後任については検討中とのこと。委員に ついては退会・辞任に伴う変動が若干あっ た。他、JAC120 周年記念事業企画である

「日本列島古道踏査事業」調査アンケートに ついて、岩手支部では岩鷲古道、子規古道を 推薦したとの報告があった。

出席 阿部(陽)・中屋・高橋(勇)・中谷 高橋(時)・鴇田・滝浦・高橋(耕)・森 熊谷(英)・熊谷(敬)・高木(恵)・今田 阿部(裕)・遠藤(正)・高橋(慎)・高橋(瑞) 中村・谷藤・澤野・川村・後藤・齋藤

月例山行の記録

副支部長 中屋重直

●4月25日(土) **小桜山〜堂ケ沢山** (花巻市)13名:幹事ー高橋(耕)

中屋・熊谷(敬)・高木(恵)・高橋(慎)・澤口 高橋(瑞)・高橋(勇)・熊谷(加)・斉藤・谷藤・ 幅下・阿部(陽)



花巻温泉から約1km進んだところが小桜山(439m)の登り口で、東北電力の鉄塔が目印になる。ピラミッド状に目立つ山容だが山頂への道はなく、先頭が選んだ北東斜面に取りついて20分ほどで登頂した。この後、大きく周回して堂ヶ沢山(364.5m)を北から縦走するコースをとる。獣道が多い山道には新湯本源泉や県立教育センターへ下りる道などが交差していて、なかなかの冒険路であった。

そして、山野草花を目的にするこの時期がお



堂ヶ沢山山頂の広場に着いてから摂った。下 山は散策路がきれいに整備されており、虚子 の句碑を経由してバラ園駐車場に帰着した。

実は、新型コロナ感染防止の緊急事態宣言の最中ということで、13名も集合はしたものの、「支部行事としての今例会は中止する」と宣言したあとなので、これは「個人山行報告」ということにする。

●5月23日(土) **大麻部山・**遠野市

12 名: 幹事-高橋(勇) 下見-滝浦 澤口・高橋(瑞)・川村・熊谷(加)・森 澤野・谷藤・幅下・阿部(陽)・中屋

大麻部山(1,043m)には旧宮守村達曽部馬越峠から大洞カルストを通る林道があるのだが、牧場の閉鎖後は太い笹竹が密生していて真っすぐ進むことができないほどに荒れてしまった。そこで今回は、稲荷穴近くの白石集落から入って山頂に到達するルートを登ったが、場合によっては果敢に縦走を果たそうと、朝のうちに馬越峠に車を回しておいた。

白石の林道は、軽四輪車が活躍して 750m

の全し図表山のけんを恵を。点しを最、しむま輸地線た進初ちたとで、いいができません。しむでは形で登むだや道地



図の点線からどんどん西にずれていく。事前に下見しているので改めて困惑はしないが、メンバーには慎重な地図読みが必要なことを支部長が講義していた。ゆるい登りが続くのだけれど、山頂は 960m鞍部の付近で一度見通すことができるだけだった。迷いやすい箇所には下見の際に赤リボンをつけてある。思いっきり体重を預けてササヤブを何ヶ所か通過すると、鹿の食害によって草原化した山頂(二等三角点)に到達した。



雨模様でもあり、きついヤブ漕ぎを強いられる周回を支持する声はなく、往路を下った。 今月は公益事業「登山道の調査・整備」である。なお、大麻部山の山容は遠野市宮守の寺沢牧場展望台からよく観察できる。

●6月28日(日) **階上岳・**階上町

14名: 幹事-久夛良 澤口・中屋・阿部(陽) 熊谷(英)・熊谷(敬)・澤野・斉藤・遠藤(正) 高橋(瑞)・高橋(勇)・森・熊谷(加)・会員外 1名

階上岳は3年前の例会でも歩いていたが、 再度選定したのは、東北・北海道ブロック大会を青森支部が八戸市蕪島のホテルで開催し、 この日に階上岳で記念山行が行われることになっていたからである。すなわち、前日からの参加者のほかに、岩手支部の日帰り隊は山頂あたりで合流して懇親を深めれば、という思惑だった。ところが例の新型コロナ感染拡大で早々とブロック大会の中止が決まった。 準備はもちろんこれからの対応にも煩わされ



て 支 は 気 が 部 す ま ま す る こ を ま 岩 行 止 と

はない。種市岳の別名もある階上岳には岩手 県洋野町からのコースもあるが、集まりの便 利さから、県境を超えて階上町鳥屋部から往 復した。

●7月11日(土) **大鉢森山・**奥州市

9<u>名</u>: 幹事-高橋(慎) 澤野・澤口 高橋(勇)・阿部(陽)・高橋(瑞)・森 熊谷(加)・中屋

奥州市の大鉢森山(634m:東京スカイツリーの高さ)へは、2003年12月に岩手支部の忘年会(プラザイン水沢)に合わせて月例登山している。オプションで「第2の早池峰山」を案内されたのも同じであったが、それもずいぶん昔のことになった。いずれ、この山への登山路の表示はほとんどないが、電力の鉄



塔もに帯がる楽るか旧とのしれっな、ら道水市にかっな、ら道水市にので線防木い中い号と界道のた

を、車で行けるところまで進んで、あとは歩けばよい。1 時間で往復できる。三角点は二等。

正法寺は大鉢森山の林道の続きにあるが、 これは悪路でしかも長すぎるので、国道 343 号寺門る始てらゆはうもでにの前「点お歩る修なあ着戻前の新」くい早験岩るいて通下の確こ、峰道の、で、峰道の、ない山の箇しかわへよ所分



●8月10日(月) 猫山「山の日記念」

(花巻市)会員 11 名: 幹事ー滝浦 森・斉藤 川村・阿部(陽)・中屋・澤口・高橋(瑞) 高橋(勇)・熊谷(加)・幅下 一般参加者 5 名: 照井・和泉・斉藤・今野

一募山事予が年う般の振業定、のな

陽奈太(小1)



広報活動は見送り、会員からの声かけだけで 10名を越す申込みがあった。ただ、当日の天 候不安もあったためキャンセルが多くでた。 逆に小学1年生の男児は当日に参加表明だったとのこと。大迫産直センターの広い駐車場 に集合し、顔合わせ挨拶の後、地元駐在所の 照井さんの薦めで「風の又三郎の舞台」旭の 又分校跡に立ち寄ってから、標高 810m(8・10山の日に懸ける意)のぞき石の駐車地点まで車で登ってから歩行開始にした。猫山山頂 (920m、二等三角点)には 10 時半に着いた。 昼食前に「モリブデン坑跡」まで行ってこよう、との提案があった。路が不鮮明なのは知

っていたし、下見もしていない。初心者を含めた山の日登山なのだから冒険しない方がよかったのだが、結果的に、健脚の精鋭男女が 探査隊となって、沢筋や大岩の間を上り下り



したが1時間経っても到達できず、昼過ぎに 山頂に引き返した。なお、モリブデン坑とい うのは地元の古老の記憶をもとに、宮澤賢治 と早池峰山を研究する大迫の町民らが探査し て、10年前に鉱山跡を見つけ、案内標識を設 置したものだという。支部としては宿題が残 った。

●8月30日(日) **焼岳(上高地)**

幹事-高橋(万)山研に宿泊を予定していた が、県外への旅行等の自粛から中止になった。

入会ご挨拶

会員番号 16439 高橋瑞穂(盛岡市)



2018年12 月に入たましたです。 州市水盛 田・水盛 です。 在住です。

私の初登 山は十数年 位前に職場

の先輩方に連れて行ってもらった栗駒山でし

た。須川温泉に泊まって翌日に登山という行程でした。よくわからず、遠足気分でトレッキングシューズとリュックを買って参加しました。

6 月の栗駒山はイワカガミやチングルマが 咲いていて、そのかわいらしさに魅了された のを覚えています。名残ヶ原や昭和湖の美し さも感動的でした。

山が好きになって、早池峰山、乳頭山、八幡平茶臼岳、岩手山などに行きました。しかし、先輩の退職や友人の出産などで登山の機会がなくなり長い間、山から離れていました。

数りしにをたが登年に振連取友最山



を始めたという話を聞き、一緒に行くことになりました。そこでやっぱり山が好き、登山は楽しいと実感しました。それからすっかり山にハマり、休みが不定期なこともあり、一緒に行く人がいなくても、どんどん一人で行くようになりました。

その頃は今よりも体力があり、怖いもの知らずで、無謀な行程でも行っていました。少し怖い思いもしたため、何か対策をしなければいけないと漠然と考えていました。

素敵な縁に恵まれ、かわい山岳会の方々と 出会い、登山にご一緒させてもらい、後に日 本山岳会に入会の機会をいただきました。現 在は定例山行や研修会などに参加し、いろい ろ勉強させていただいています。

これからも山に関するいろいろな事を学び、より安全に山を楽しみ、自分の得た知識や経験、登山の素晴らしさを様々な人に伝えられるようになれたらと思います。

今後もどうぞよろしくお願いいたします。

2020 岩手山ボッカ大将

澤口誠

6月20日(土)

9名:阿部(陽)・高橋(瑞)・澤野・森・中村熊谷(加)・谷藤・澤口・高橋(勇)

当初6月6日開催予定だった2020岩手山ボッカ大将、今年はコロナの影響もあり二週間ずらしての開催。日本山岳会岩手支部からなんと9人で参加してきました。



6:00 東屋に到着するとすでに 1 トンの荷物。トップを狙う方々はビール箱をすでに数箱確保済み。いつも上位の渡辺さんの背中のビール箱の数見て戦意消失。500 のビール箱を二箱、350 のビール箱二箱・・・・凄すぎる!!

私は翌日の山頂での作業もあった為、控えめにビール 500 の箱を一箱と、40のウイスキーやバッチと泊り道具。ボッカ大将初参加の岩手支部の女子達もザックにパンパンに荷物を詰め込んでいました。

6時42分いざスタート。昨年よりも背中が少し軽いかな?二手に別れて登ります。先行組(澤口・高橋(勇)・森・澤野・熊谷・谷藤)は新道4合目から旧道へ切り替え登りました。後組(阿部・高橋(瑞)・中村)には4合目辺りで追いつかれる。「重い、重い。」と言いながら初参加のJACの女子達も頑張ります!

私は6合目辺りでやはり足に違和感。今年 はコロナのせいで標高の高い山への登山も自 粛していたので、まったく山用の体力がつい てない。何とか7合目。ここまで来ればゴールはあと少し! 低木からひょっこり小屋が見えるとホットします。4時間30分かけて岩手山八合目避難小屋へ無事到着。いや一疲れた!!



いよいよ計量。私の記録は 29.5kg。毎年背中が軽くなっていく (笑) 続々と大きな荷物を背負った各団体の方々が登ってきます。そして参加賞のポロシャツ、今年は黄色。目立って良い。盛岡南高校の登山部のボッカ大将参加は本当に素晴らしいと思った。

谷藤は山頂へ向かい、他は昼食を小屋の前で食べ下山。私と高橋(勇)は翌日の作業の為小屋へ宿泊。早めに夕食の食事をして次の日の作業にそなえます。

翌日、二人で9合目避難小屋の小屋清掃やトイレ掃除をし、その後奥宮にて雪で崩れた石碑の修復、お賽銭回収などなど…天気も良くせっかくなので二人で岩手山の山頂へ。(ち



小屋へ戻り残りの小屋作業。コロナ対策の

為、小屋の中の床にはブルーシートを敷いたり、今年は小屋の毛布は使わせない為、毛布を4階に上げたり。今年の小屋営業は大変だと思った。

作業を終えた私と高橋(勇)は10:30分下山開始。下りは避難小屋で不必要になった物やガソリン缶を二人で協力して荷降ろしをして12:30下山。二日間とても疲れましたが、とても楽しかったです。

数日後計量結果が。なんと男女上位 10 位に 我が岩手支部の名前が 6 名も。 男子で言えば 参加人数 56 名中、高橋(勇)が男子 3 位。女子 では参加人数 24 名中、高橋(瑞)が 4 位。今年 は日本山岳会岩手支部の大活躍の 2020 岩手 山ボッカ大将でした。

参加の皆様お疲れ様でした!2021 ボッカ 大将も頑張ろう!!

岩手山ボッカ大将 2020 の成績

(単位)kg

順位	男 子	順位	女 子
1	渡辺良平(翌檜) 52.50	1	樋口由実(滝沢市)36.50
2	及川秀明(北上)44.50	2	菊池恵理(北上)30.00
3	高橋勇一(日本山岳会)35.50	3	及川真紀(北上)27.00
4	米澤邦彦(雫石町)31.50	4	髙橋瑞穂(日本山岳会)25.50
5	村上友志(アルペン)29.50	5	渡辺美智子(アルペン)19.00
5	澤口誠(日本山岳会)29.50	6	澤野沙織(日本山岳会)16.50
7	舘澤博文 (滝沢市) 26.50	7	蝦夷森礼子(福岡)16.00
7	千田浩(RCC)26.50	8	森美枝子(日本山岳会)15.00
7	室岡康正(矢巾山好)26.50	8	藤井亜紀子(RCC)15.00
10	川口卓也(雫石町)26.00	10	熊谷加奈子(日本山岳会)13.00



入 会 ご 挨 拶

会員番号 16456 森美枝子(盛岡市)



山との出会い、それは大好きな父を亡くしポッカリと穴のあいた様な日々を過ごしている時に偶然参加したモンベル主催の乳頭山登山でした。

中学、高校時代バスケットボール、20代で合気道、30代でソフトボール、40代で卓球と、体力には自信がありました。晴天の中、雄大な景色を眺めながら歩く山道は想像以上に気持ち良く、心が癒され、疲労感なく山頂に立つ事が出来ました。

それからの私は山にとりつかれたかの様に 涸沢登山学校をはじめ各方面の募集に応募し 北アルプス、南アルプス、中央アルプスの



そんな中、阿部支部長と石井スポーツのコラボ、冬山限定コース、安比お月山参加チャンスが廻ってきました。先頭を歩く日本山岳会の方は歩くテンポも良く、あまり人が入らない未知の世界を切り開くワクワク感が、たまりませんでした。下山後の阿部支部長のトークがまた魅力的で素晴らしく、益々、山に引き込まれて行きました。

私が日本山岳会に入会するきっかけになったのは阿部支部長との出会いがはじまりでした。山について知りたい、歩き方を学びたい、もっともっと追及したい、そんな想いから入会した日本山岳会岩手支部は人生経験豊富な方々、若い方々と年齢層も広くバランスのとれた活気ある会です。新たな発見や仲間とのふれあいでもある月例会山行には毎回、楽しく参加させて頂いております。

これからも、様々な事にチャレンジし成長 して行きたいと思いますので皆様、ご指導の 程をよろしくお願いいたします。

深田久弥と岩手山 渡邉博厚



述や写真等が載っているのを見ると、出来る だけ正確にと思うのである。

作家の深田久弥さんが岩手山を最初に書いた文章は「去年の夏・・途中汽車の窓から岩手山(岩鷲山)のそそりたつ姿を望んで・・という歌を想い出し」と書いている(昭和6年5月、雑誌セルパン『山の文章』)。また、山と高原で「日本100名山岩手山」が昭和38年3月号に掲載された。これは最終回(百名山50)筑波山・富士山(4月号)の1号だけ前のことだった。「日本百名山」はほとんどで割かれている。早池峰と岩手山がそれである。そんな貴重な6座の中で2座も岩手の山を他の山より枚数多く取り上げているのでやっぱり岩手の山はすごいなと思ったものだ。

少し前のこと、山岳雑誌「岳人」2017年4月号に「深田久弥の百名山登頂日と登山ルート」の掲載を見つけた。岩手山は「1939年11月初旬、網張温泉の鬼ヶ城コース」とあった。あれ、鬼ヶ城コースではないはず。それに1939年(昭和14年)には確かに1月中旬に八幡平へスキーで登ってはいるが、岩手山は戦後のこと、それも昭和30年代に入ってのことだ。「岳人編集部」がこんな間違いをするとは考えられない。しかし、「日本百名山の中で

紀行文が見当たらない山の一つが岩手山である」と「ヤマケイ文庫・深田久弥選集百名山紀行(上)2015年発行」にも書いてある。それならと、深田久弥の愛読者の一人として、何年何月何日・誰と岩手山に登ったかを調べてみた。以下はその結果である。

百名山岩手山の文中に「私が行ったのは、 すでに登山者の全く絶えた 11 月初めだった が」とあり、何年かの記載はない。深田さん の著書、雑誌「旅」(昭和42年1月号)「晩秋 の田沢湖線」の文中に「数年前私が岩手山へ 登りに来た時も、盛岡で君(村井正衛さん) の出迎えを受けた。・・小岩井農場の牛舎を訪 ね・・網張温泉へ向かった」とある。これは 昭和41年11月の田沢湖線開通時に書いた文 章である。これで昭和 41 年から数年前と判 る。百名山には「私は南側の網張温泉から登 った」とあり、「姥倉山を越えると、西岩手の 旧火口に入る」そして「気持ちのいい湿原が 展がっている」と記して岳人記載の鬼ヶ城コ ースではなくお花畑コースを歩いたことも判 る。下山路については「今度は松川温泉に下 った」さらに、「私が訪れた時はボーリング最

中の空煙て松発とで空にをい川電も上噴白あ」地の書



ている。昨年暮れ、八幡平市博物館で企画展「松川温泉記」が開かれたのを知り、学芸員の方に二本の空噴が見られた時期を調べてもらった。蒸気噴出は調査井1と2で昭和35年10月から12月まで、と昭和37年は調査井1本から3本が噴出し、11月頃は2本噴出していた時もあったようだと。

その後、深田さんの昭和37年当時ころの山行を調査中に決定的な本を見つけた。平成11

年発行深田クラブ編「深田久弥の研究。読み、歩き、書いた」がそれだ。早速引用させて頂くと昭和37年11月4日消印で望月達夫氏宛の書簡中に「岩手山は終始霧の中でしたが上に近づく頃、雪が降りだし新雪の敷いた清浄な頂きを踏みました」と記している。これにより登山は昭和37年11月1日から3日間の中の一日と判った。登山日を特定の為、盛岡の気象状況を調べて見たのが下記である。

昭和37年盛岡地方気象台観測値

	11/1(木)	11/2(金)	11/3(土)
最高気温	16.4°C	17.8℃	13.3℃
最低気温	9.2°C	9°C	9.9°C
9 時	皇	雲	曇
12 時	雲	晴	曇
15 時	晴	雲	雨
最大風速	4.8 ^½ -	5.8 ゲル	5.8 ⊀-
風向	南	南	南
日照時間	2.8h	5.5h	-
降水量	0.0mm	0.0mm	19.5mm

気象観測地と望月達夫さんへの書簡や百名 山文中の「折から雪が降り始めて、清浄な白 色に装われた頂上となった」の文面から3日 の可能性が一番高いと考える。11月の山はい つ降雪があっても不思議はないが盛岡の天気、 気温、降水量等から3日とした。網張を早朝 発ち山頂へそして下山路は松川へと降った。 最終バスは15時。当時の深田さんの体力なら 間に合ったと思う。屋敷台発 16 時で盛岡駅 へ、夜行寝台列車で4日早朝に上野に着ける。 同行者は誰か当初、深田さんを網張(網張館) に案内してくれた村井正衛さんと考えた。雫 石町営時代「網張館」の管理人を務めていた 村上匠さんの話では「深田さんかどなたかは 分からないが、村井正衛さんは時々お客さん を連れて来てくれたが一緒には岩手山に登ら なかったようでした」と話してくれた。確か に当時は車では網張館までは入れず、下の旧 西山発電所付近までだった。帰路に深田さん

は松川へ下りている。同行なら松川ではなく、 車を停めた西山へ下り盛岡駅まで送ってもら えただろうに。深田さんの単独行だったと思 う。

この登山から凡そ3ヶ月後「山と高原(319号)百名山連載49回」に岩手山と有明山が掲載された。有明山は後の単行本化された新潮社版「日本百名山」には未収録となった。これは未登のまま書いた為としている。岩手山登山は深田さん自身の百名山99番目の登山だった。100番目はこの約1週間後に登った魚沼駒ヶ岳(連載47回)だ。

深田さんが岩手山登山に来て今年で58年、 社会は大きく変わってしまった。交通機関だ けを見ても陸空海、便利になり過ぎた世の中 を深田さんはどう思っているだろうか。今年 は新型コロナで遠方の山は遠慮だが収まれば どこにでも行けて登れる。百名山誕生の昭和 30 年代そしてそれ以前の登山を考えると深 田さんの偉大さが余りに大きい。当時、連載 を何本か持っている中で、登り残した山へ取 材登山の99座目が岩手山だった。深田さんの 著作研究者は多く「深田クラブ」等もあり今 回の事もすでに調べられ発表されているかも 知れない。JAC 岩手支部会員の方やお知り合 いの方で「深田久弥と岩手山」のことをご存 知の方はお教えいただければ幸いである。「家 のひい爺さんは深田久弥さんと一緒に岩手山 に登ったそうだよ」などと。



(写真) 今年5月末に害鷹森(宮古市川井) から遠望した岩手山

「初めての体験」 熊谷加奈子

8月2日県山協主催の沢登り講習会に参加させていただきました。(会場五葉山桧山川)同じ山でもルートにより景色、危険度、技術が全く異なり山の奥深さを垣間見た思いです。

谷の色は緑色で透明な滝壺ブルーに癒されながらと言いたい所ですが、眼前に繰り広げられる難易度の上がる課題をクリアする事で精一杯でした。



危険と隣り合わせで、一つのミスが命を左右 する中、あらゆるリスクを想定し安全を確保 する知識と技術の習得は必須条件である事を 体感致しました。

沢を登りきった後の両脚はパンパンで限界 を感じましたが、爽やかな疲労感と充実した 達成感で大声で万歳三唱!

「はっ!」と我に返ると万歳は私だけ・・・恥ずかしさでいっぱいでしたが、皆様の暖かい笑顔は今回の体験と共に私の大切な宝物となり

受講するに際場をにといるといるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、高橋勇一さんとない、高橋勇一さんとない、高橋勇一さんとない、高橋勇一さんとない、高橋勇一さんとない、高橋列

ました。



特別にレクチャーを受け大変有りがたく思っています。道具一式(沢靴、ハーネス、カラビナ等々)支部長にお借りしました。『私の一生に一度はやってみたい』を快諾し実現へと導いて下さり、感謝と喜びでいっぱいです。

今後ますます未知の世界を覗いてみたい私 です。ありがとうございました。

内山達雄先生を偲ぶ 中谷 充



岩手支部山幡消にで生これが姿外同山れの思ながない山にされたにで生こいではなめにといるの先はあるはいの思いがある。ったはある。ったはある。

平舘高校に転勤して来た彼と机を並べたのは昭和42年4月であった。翌年に山岳部顧問に欠員が生じた際に、「学生時代山に親しんでいたこともあるので顧問になりたい」との申し出があり、其れが承認され八重樫先生と小生に内山先生と三人で山岳部を指導する事になり、登山の実技についても座学の面でも意見を戦わしながらの指導であった。

当時の平舘高校山岳部員は男女で百人前後、全国でも珍しい大所帯ということでその名が知られていた。登山行動では八重樫・内山両先生は男子の指導を分担した。五月の残雪期登山にはじまって毎月2,3回の土日の一泊登山、夏休みには秋田駒から裏岩手を縦走し八幡平にかかる5泊6日位の夏山合宿、冬休みには八幡平の茶臼岳中心の4泊5日の冬山合宿等の部独自の登山を統導するほかに、座学として天気図の作成やその読み方についてなど精力的に指導した。

毎年幾つかの県大会の選手統導や県大会で 選抜されて 45 年兵庫県の氷の山、47 年山形 県の吾妻連峰、50 年の山梨県の北岳の全国高 体連の登山大会に選手監督として出場し、吾 妻連峰と北岳では最優勝に選抜されている。

厳しい指導をする先生であったが部員からの人気は抜群であり、全国高体連登山部内で屈指の部を築いてくれた。彼の教え子は多数今でも山登りをしているし、岩手県山岳協会の副会長のほか指導委員会のリーダー等の要職にも数人いる。

テント内でお茶の道具を出してたてようとすると、いつも「私がやります」と茶筅を取り上げられてよくお茶を頂いた。彼は大学時代茶道部のリーダーであった。茶道の一家に育ちながら全く作法を習っていない小生であったが、よく茶道の話になり周りの生徒は唖然としていた。職員室では机が隣同士でよく山の話をしていて、さながら山の座学のようであった。

内山さんは京大の桑原武夫さんの著書をよく読んでいて話題にしていた、その業績などを通して京大山岳のファンでもあった。当時私は今西錦司さんと山を歩くことがたびたびであったから話は弾んだ。彼はまた旅好きで国内あちこちを訪れ、小生と同じくする処も多くその話題も楽しかった。

平舘高校の次に水沢工業高校・大迫高校と 勤務され、いつも山岳部顧問であった、特に 水沢工業高では数回県大会で優勝。全国大会 にも出場した。大迫高校時には全国高体連大 会が岩手が会場となり、登山部の準備のため 事務局の専属として尽力された。次に雫石高 校に転じた数年後に小生も転任してここでも 一緒に山岳部顧問になった。国体の県選手を 輩出している。

退職後は日本山岳会に所属して第五代目の 支部長に選出され尽力された。今にして思え ばこのあたりから体調がすぐれなかったよう だ。 あまりにも早い。あの明快な言葉遣いと山登りの出で立ちで身を固めた颯爽とした姿は 今も目に残っている。数少ない山登りの同志 を失い悲しみと共に残念でならない。

御冥福を祈る。

9 月**例会「鳥古森**」850m 支部長 阿 部 陽 子

●9月12日(土) 大槌町

鳥古森は「とり(つ)こもり」と読む。大槌金沢(かねざわ)周辺に住む方ならこの可愛らしい山名に聞き覚えもあろうが、登山者にはおよそ知られない未知の山域であった。熊谷加奈子さんに「鳥古森に登りたい」とのリクエストをもらったので幹事をお願いし、9月の支部例会・公益B自然観察会として、鳥古森登山を計画した。

盛岡と大槌は最短ルートでも、車で概ね2時間30分かかる。国道106号から国道340号の小国を経由し、立丸トンネル手前で県道26号のぐにゃぐにゃ道を駆けあがって、標高620mの土坂峠へとつなぐ。



易の重要な分岐点であった。広い鞍部に「三 峰山」と刻んだ石碑が立ち、往時の喧騒を今 に伝えている。また、西側へ少しそれた場所 に「土坂」という点名の三等三角点が設置さ れているので、併せて探すとよい。

十数年前に、私は折合橋の民家の裏から入山し、山頂までピストンした経験があった。 が、なにせ記憶は古い。そこで幹事には、例 会本番にむけて入念に準備してもらった。 何故なら登山口の確認はもとより、長時間の 駐車や入山の許可を得るなど、マイナーな山 ほど幹事の下調べが成功の鍵をにぎるからだ。 しかもクマの棲息エリアなので、下見の登山 を幹事一人に任せるわけにはいかない。

9月 10 日に中屋ドクターと私の三人で偵察したところ、金沢川にそそぐ折合沢の落合に、記憶どおり鳥古森への入口は見つかった。そのころ5軒あった民家はすでに二つが廃屋と化し、夏草も生している。初めて登る人には廃屋の横が、鳥古森へ通ずる取り付きとはまさか想像できないだろう。

「白鳥がさぁ、鳥古森に降りたってドング リの実を食べていた!今はどうか知らないけ どね」と、奥の家の男性がドングリ眼で話す。

「まるで童話の世界じゃないか」と訝しく思いながら、私はドローン飛行のトリ目線で「鳥」 にちなむ考察を試みた。

地眺、度の周どのの周どが



う訳か鳥にちなんだ地名が集中している。例 えば鳥越(とりごえ)・似鳥(にたどり)・白鳥 (しらとり)・小鳥谷(こずや)、そしてレアな 地名の毛鳥(もうちょう)。ドングリの森を連 想させる楢山だってある。白鳥に限らず渡り の鳥は、北帰行の直前で英気を得ようと、鳥 古森に降りたった可能性はありそうだ。ドン グリはブナ科なので、ブナの実同様に栄養価 が高いうえ腹持ちがいい。私は食べたことは ないが、縄文時代の主食のひとつであったと 言われる。

12日は終日雨だった。杉の造林地を抜けると明るい単尾根に上がる。山には鹿が棲むらしく、主稜線に出るまで見通しのよい清潔な落葉樹林帯が続く。おじさんは「マイタケ採ってきて!」、おばさんは「シドケ摘み」と生活密着型で言う。なるほど、方々にジュース

の缶が散らばっていた。

登り3時間で三等三 角点のある山頂に着く。 見晴はない。でも鳥古森 の自然観察会で「白鳥と ドングリ」とか「鳥古森 のレストラン」とか、十 人十色の異色の童話が



できそうだ。下山後に炭酸割の紫蘇ジュース で喉をうるおし、新鮮なモモをかじって解散。 山岳会らしい探査山行であった。

10 名:幹事一熊谷(加)・阿部(陽)・中屋・森高橋(勇)・澤口・滝浦・斉藤・今田・高橋(瑞)

★ 編 集 後 記 ★ 高 橋 勇 -

冒頭の支部長挨拶にもあるとおり、52号より支部通信の編集を菅原敏夫さんから引継ぐ事になりました。

30 号より一人で編集に携わってきた菅原さんには心より感謝申し上げます。

さて、52 号の発行に際して今回は中屋 阿部(陽)・熊谷(加)・高橋(勇)の4名で行う ことになりました。

最初の打合せは7月16日、区界高原ウォーキングセンターにておこなわれB5版からA4版に変更しページも8ページ程度で発行することで話し合われました。

その後、8月27日に2回目の打合せを行い、実際のレイアウトなどを話し合いました。

PC で作業を行ってみると思ったように作業が進まず表紙でいきなりつまずきました。 過去の支部通信を眺めひたすら悩む、この線 はどうやって引いたのだろう…など。

そんな試行錯誤を繰り返しての支部通信 52 号となりました。

できあがってみれば総ページ数 12 ページ、 なかなかのボリュームになったのではないか と思います。初めて編集した支部通信、ぜひ ご覧頂きたいと思います。